

W106b 全天 X 線監視装置搭載 X 線 CCD カメラ (SSC) のデータ公開

富田洋, 木村公, 中平聡志 (JAXA), 常深博, 佐々木将軍, 内田大貴 (大阪大学), 杉崎睦 (理研), 山田久幹, 吉留幸志郎 (宮崎大学)

全天 X 線監視装置 (MAXI) は国際宇宙ステーション搭載の X 線モニタでガスカウンター (GSC) と CCD カメラ (SSC) で全天を観測する。本発表では公開準備が出来た SSC データについて報告する。SSC はスリットカメラで宇宙ステーションの軌道周回にあわせて全天をスキャンする。X 線は合計 32 個のペルチェ冷却 CCD 素子で検出する。公開データはライトカーブが中心で 1 日毎に更新される。SSC は一日での全天カバー率は 30-40% 程度と低いため、ライトカーブには大きな抜けもあり有効面積も小さい (約 3cm^2) が、視野は $1.5 \times 90^\circ$ と大きい。さらに、これまでの全天 X 線モニタ (MAXI/GSC や RXTE/ASM) は観測帯域は 2keV 以上であるのに対し、今回の SSC 公開データは 0.7keV までのデータを含み、このバンドでは過去最高感度のモニタデータを提供する。ライトカーブは 4 つのエネルギーバンド ($0.7-1.8/1.8-4.0/4.0-7.0/0.7-7.0\text{keV}$) に分けられている。報告ではデータ公開の内容に加えて、明るい天体 (例えば Cyg X-1 など) について公開データを利用した解析結果も報告する。